

佐備川西岸遺跡

富田林市遺跡調査会報告18

編集・発行 富田林市遺跡調査会

住 所 〒584-8511

富田林市常盤町1番1号

発行年月 1998年1月30日

調査地 富田林市大字佐備1109-1他8筆

調査原因 工場建設に伴う緊急発掘調査

調査主体 富田林市遺跡調査会

調査担当者 田中正利

調査面積 379m²

調査期間 平成10年4月8日～5月31日

はじめに（図1）

佐備川西岸遺跡は、富田林市の南東部にある、弥生時代から中世にかけての遺跡です。遺跡の東側を流れる佐備川は富田林市の中央を流れる石川の支流で、川沿いには遺跡が点在しています。特に、上流の甘南備遺跡や下流の西板持遺跡では縄文時代の遺物が出土しており、佐備川周辺で行った分布調査の時に石鎚が採集されていることから、佐備川流域が縄文時代以降人々との生活の場となっていたことが分かります。

佐備川西岸遺跡内での発掘調査は1983年に大阪府教育委員会が行った小規模な調査だけで、この調査では遺構の状況は分かりませんでした。

今回、遺跡の南端部に隣接した遺跡範囲外の部分で試掘調査を行った結果、遺構があることが確認されました。このため、遺跡の範囲が当初よりも南側に広がることが分かり、建物の南東部分について、申請者の日本カーペット工業株式会社の協力を得て調査を行うことになりました。

層序（図3）

現況は雑種地ですが、以前は耕作地であったようです。調査の結果、盛土の下で3面の耕作面が確認できました。もっとも古い耕作面は調査区の南側でのみ確認でき、出土遺物から中世以降に営まれたものと見られます。この耕作面直下が地山になります。遺構はすべて現況から約0.6m下の地山面で見つかりました。



図1 調査位置図

遺構と遺物

今回の調査では、落ち込み、溝3、柵、土坑1、ピット10が見つかりました。

落ち込み 調査区の南側で見つかった自然地形の落ち込みで、北西から南東に傾斜しています。肩は2段に落ちており、その下の部分は比較的平坦になっています。埋土は4層に分けることができ、上から順に第1層・暗褐色混砂弱粘質土、第2層・褐灰色粘質土、第3層・灰褐色粘質土、第4層・灰色混砂弱粘質土となっています。出土した遺物はあまり多くありませんが、第2層、第3層から弥生時代後期の土器が比較的まとまって出土しており(図2-1, 2)、第2層からは石包丁(図2-3)が1点出土しています。ただし第3層から瓦器の破片が1点出土しており、水田化するに当たって中世以降に落ち込みが埋められたものと考えられます。

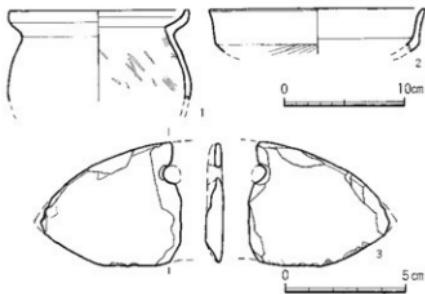


図2 落ち込み出土遺物

溝1 調査区の北側で見つかった、幅約0.8m、深さ約0.1mの浅い溝で、ほぼ南北に伸びているもの

が南側で南北方向に曲がっています。底面に高低差はほとんどありません。埋土は暗褐色混砂弱粘質土で、土師器が少量出土しています。

溝2 調査区の中央付近で見つかった、幅約0.5m、深さ0.05mの南北に伸びる浅い溝です。南側は後世の搅乱で確認できませんでした。底面に高低差はありません。埋土は暗褐色混砂弱粘質土で、遺物は出土していません。

溝3 調査区の南端部分で見つかった幅1.5m以上、深さ約0.1mの東西方向の溝で、落ち込みの平坦部分にあります。南側の肩は調査区の外側になりますが、断面の形状から考えると、それほど大きくながらないと思われます。底面は西から東へ傾斜しています。埋土は第1層・濁灰黄褐色混砂弱粘質土、第2層・茶灰褐色弱粘質土で、第2層は東端部分でのみ見られる層です。遺物は出土していません。

柵 調査区の中央よりやや北側で見つかった東西方向の柵で、溝2を切って造られています。穴の形は隅丸方形かやや形が崩れたもので、大きさはそろっていませんが、心々間は約0.7mで一定しています。埋土は茶灰褐色弱粘質土で、埋土中から土師器と瓦器が少量出土しています。

土坑・ピット 調査面積から考えると土坑、ピットは少ないといえます。ただ、今回見つかった土坑やピットの深さは0.1m以下のものがほとんどで、スキ溝によって削られている可能性もあり、建物などがあったかどうかはよく分かりませんでした。詳細については表を参照して下さい。

遺構名	形 状	規 槟 (m)	深さ (m)	埋 土	遺 物
土坑	(不整形)	1.69×(0.57)	0.08	暗褐色混砂弱粘質土	なし
P-1	(不整形)	0.26×(0.21)	0.05	灰茶色混砂弱粘質土	なし
P-2	円形	0.33×0.30	0.04	灰茶色混砂弱粘質土	なし
P-3	小整形	0.58×0.35	0.04	茶灰褐色混砂弱粘質土	なし
P-4	(不整形)	0.73×(0.35)	0.05	茶灰褐色混砂弱粘質土	なし
P-5	楕円形	0.33×0.18	0.03	灰茶色混砂弱粘質土	なし
P-6	不整形	0.82×0.47	0.09	灰茶色混砂弱粘質土	なし
P-7	不整形	0.88×0.47	0.04	灰茶色混砂弱粘質土	なし
P-8	不整形	0.58×0.23	0.10	灰色混砂弱粘質土	なし
P-9	不整形	0.60×0.38	0.10	灰色混砂弱粘質土	なし
P-10	楕円形	0.48×0.27	0.13	灰色混砂弱粘質土	なし

土坑ピット一覧表

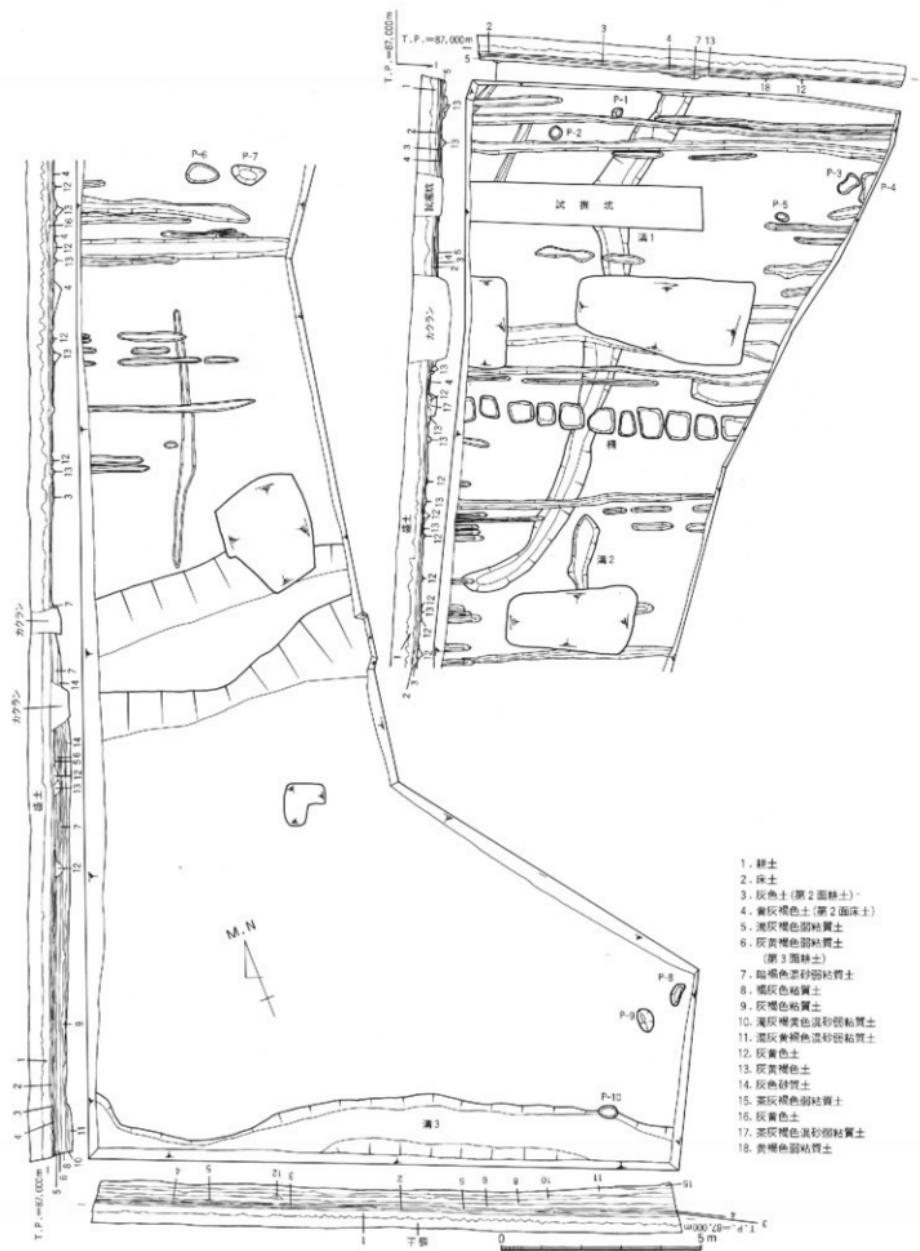
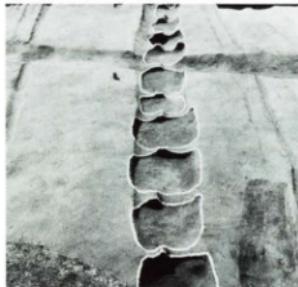


図3 遺構平面・断面図



(上) 調査区北半遭構検出状況（南西から）

(下) 調査区南半遭構検出状況（南西から）



調査区北半 棚検出状況（東から）

分かっていなかった調査地周辺の状況が断片的ながら明らかになりました。

まず、落ち込みの埋土からは石包丁や弥生時代後期の土器が比較的まとまって出土しています。今回の調査ではこの時期に当たる遺構は見つかりませんでしたが、弥生時代の集落は調査地周辺の別の場所にあったと考えられます。

また、平安時代にこの辺りには河内長野市にある觀心寺の莊園が散在しており、莊園を管理するためと思われる建物があったことが觀心寺の管財帳に記載されています。今回見つかった柵との関連についてはよく分かりませんが、この周辺に建物があったことが想定されます。

まとめ

今回の調査では、佐備川西岸遺跡内で初めて遺構が確認できたという点で重要で、これまでよく

報告書抄録

ふりがな	さびがわせいがんいせき					
書名	佐備川西岸遺跡					
副書名	富田林市遺跡調査会報告18					
巻次	-					
シリーズ名						
シリーズ番号						
編著書名	田中正利					
編集機関	富田林市遺跡調査会					
所在地	〒584-8511 大阪府富田林市常盤町1番1号 ☎0721-25-1000					
発行年月日	西暦1998年5月31日					
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間
		市町村	遺跡番号			調査面積 (m ²)
さびがわせいがんいせき 佐備川西岸遺跡	大阪府富田林市 大字佐備1109-1 他	27214		34° 27° 50°	135° 36° 21°	1998.4.8 ~ 1998.5.31
所収遺物	種別	主な時代		主な遺構		調査原因
佐備川西岸遺跡	その他	弥生時代～中世		溝、落ち込み 柵、ピット		工場建設に 伴う 緊急発掘調査 特記事項
				弥生土器、土師器 須恵器、瓦器		